
助けてあげる。

花雪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

助けてあげる。

【Nコード】

N6997Y

【作者名】

花雪

【あらすじ】

氷帝学園で起きているいじめ。いじめられている葛城優は、とても苦しんでいた。そんな時、自分の味方だと言う少女が現れる。氷帝メインの嫌われ小説です。無理な方は避難です。

Prologue.

『お願いだ、助けてくれ……』

携帯電話を片手に持ちながら、少女は目を閉じた。

肩までの長さの、桃色の髪。とても長い睫毛。

まるで人形のようなその少女は、目を閉じたまま微笑んだ。

「ええ、いいわよ。助けてあげる」



氷帝学園。いまやそこは荒れきっていた。

原因は『いじめ』だ。それはとある日、唐突に始まった出来事だった。

『ねえ、優ちゃん。……消えてくれない?』

狂ったように微笑むあの女の姿を、少女——葛城優は一生忘れないだろう。

葛城優、彼女こそがいじめられている張本人だ。優はここ、氷帝学園テニス部のマネージャーだ。それはもう1人いる。

もう1人――一ノ瀬遥。いちのせはるか彼女に、優ははめられたのだ。

『消えて、ほしい……?』

『そう。消えてほしいの。……ウザいのよね、貴女』

『そ、んなの……』

『ああ、もう。じゃあもう消えやすい様にしてあげる!』

そう遥は言うど、近くにあった水の入ったバケツを持ち、その水をかぶった。そして茫然としている優に向かってそのバケツをなげる。

『ね、すぐに消えられるからね?』

にこりと遥は微笑むと、すうっと息を吸った。

『きゃああああああああっ!!!』

――その後、テニス部の部員がかけつける。

無論疑われたのは優だった。全員が優を軽蔑し、呆れ、見捨てた。だが、跡部景吾、日吉若、樺地宗弘は残った。彼らは優を信じたのだ。

その後も優ははめられ続け、結果的に優は全校生徒から軽蔑され、いじめられるようになった。

「……どうして、こうなったんだろ」

ポツリと優は呟いた。傷が痛んで、優はおもわずそこをおさえる。

「……っ」

「—————苦しい？」

突如響いた自分の物ではない声に、優はビクンと体を震わせた。

まるで鈴の様な、どこか心地の良いその声。ゆっくりと優が振り向けば、そこには目を瞠る様な美少女が居た。

桜よりも濃く、綺麗な色をした桃色の髪。碧眼の瞳はまっすぐに優に向けられている。白くきめ細やかな肌。なによりも目を引くのは、一枚の絵のようなその顔だった。

「だ、だれ……？」

「人に名前を尋ねるのが先じゃないでしょ。自分からじゃなくて？」

「あ、すいません……」

少し慌てる優に、その少女はとても美しい笑みを見せた。

同じ性別である優でさえも、そんな美しい少女の笑みに面喰い、固まってしまう。

「大丈夫。私は敵じゃないわ。—————私は、貴女を助けに来たのよ」

優は通常でも丸い瞳をさらに丸くして、少女を見つめた。

少女は意味深に、にこりと笑ったのだった。

――さあ、愚かな奴らへのお仕置きの間だ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6997y/>

助けてあげる。

2011年11月21日06時56分発行